

令和2年5月26日

【休業中の学び】



ちょっとかたい見出しになっていますが、この休業中の子どもたちの「学び」について少し考えてみたいと思います。各学年のおたよりから子どもたちの様子を読ませていただき、このお休みでの子どもたちの学びはすごかったなあというのがわたくの率直な感想です。我々はとかく、勉強というと国語だ、算数だ、理科だ、社

会だ……を連想してしまい、それを学校でやらなければ学べていないと思いがちですが、学びってそれだけではないじゃないかと思うんですよね。今年度から施行されている「学習指導要領」<全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めている。これを「学習指導要領」という>では、資質・能力の育成を目標としています。つまり、知識・技能は生きて働かせるものであり、思考力・判断力・表現力は未知の状況にも対応できるものを育成していこうという、新しい時代に必要となる資質・能力の育成をめざしているのです。奇しくもこの臨時休業で子どもたちは「学校があるから」とか、「先生に叱られるから」とか、そんな理由だけで学んでいたのではない気がしますし、学校や先生がいない分、自分から学びを求め、自分から学び方を学んでいけた面があるように思うのです。我々は、「教科書“を”教えているのではなく、教科書“で”」この



南昇降口の切り株に、シジュウカラが子育てをしています。これも、子どもたちが教えてくれました。子どもの興味は無限です。そして、気づきは学びの第一歩（今日は親鳥がエサをどのくらいの間隔で運んでくるのかも教えてくれました。学びは継続しています）。

ような力を育成することを目指している。そんなことも、この休業中の子どもたちから気づかせていただいたような気がします。そして、この子どもの姿をこれからも大事にせねばと思います。（ちょっと「つぶやき」のわりには本当にかたい話になってしまいました。すみません。そして、お付き合いいただきまして、ありがとうございます）。